

学校評価

学校教育目標
夢実現へ挑戦する
生徒の育成

学校経営目標
たくましい実践力のある
いきいきと躍動する学校

- 確かな生徒理解のもと、生徒一人一人のよさや可能性を生かす学校
- 互いに磨き合い、高め合い、夢実現に挑戦する学校
- 生徒・保護者・地域から信頼され、応援される学校

I 令和5年度の取組 「夢実現へ挑戦する生徒の育成」に向けて 夢や希望の実現に向けたキャリア教育

5つの力				
気付く力	考える力	伝える力	将来をえがく力	つながる力
自分のよさに気付く → 話し合い活動	自分事として考える → 教科・総合的な学習の時間	コミュニケーションをとる → 交流・グループ活動	学び続ける意欲 → ポートフォリオ	人の考えとつながる → 交流・話し合い活動
地域のよさに気付く → フィールドワーク	情報を分析する → 教科・総合的な学習の時間	プレゼンを行う → 交流・発表	将来の自分の姿 → 職業学習	仲間とつながる → 交流・話し合い活動
疑問に気付く → 交流活動	論理的に考える → 教科・総合的な学習の時間	自分の考えを伝える → 交流・発表	進路選択 → 進路学習、高校体験学習	地域とつながる → フィールドワーク・インタビュー
価値に気付く → 振り返り	課題を解決する → 課題解決学習	地域に発信する → 地域公開・学校HP	よりよい社会や地域 → ホソトレ	実社会とつながる → 職場体験学習・講話

II(1) 自己評価

○生徒の評価（できた、まあできた）

1年生 2年生 3年生

基礎的・基本的な学習内容が身に付いた。	88%	86%	96%
集中して授業を受けることができた。	93%	88%	98%
挙手・発表や話し合い活動(意見交換)など、積極的に自己表現できた。	62%	54%	80%
自分の意見を主張しすぎず、仲間の意見も大切にすることができた。	91%	90%	98%
発表するとき、聞き取りやすい声で語尾まではっきりと発言することができた。	79%	76%	86%
教科の授業や学活、道徳、総合的な学習の時間において、タブレットを十分に活用できた。	96%	91%	98%
宿題以外の家庭学習にも意欲的に取り組んだ。	61%	60%	81%
授業の内容はわかりやすかった。	95%	87%	98%
「知りたい」「やってみよう」「できるようにになりたい」と思う授業が多かった。	80%	75%	91%
学校行事(体育大会、合唱コンクール、修学旅行、野外活動、地域探訪等)に積極的に取り組めた。	97%	98%	96%
部活動、校外クラブ等では、技術の習得や体力の向上に向け、粘り強く取り組むことができた。	99%	92%	91%
将来の夢や身近な目標をもって、日々の生活を送ることができた。	75%	81%	84%
進んで明るいあいさつをした。	94%	96%	96%
きまりを守り、正しい身なりで生活した。	93%	97%	99%

1年生 2年生 3年生

TPO(時・場所・状況)をわきまえた発言や行動ができた。	92%	92%	98%
自転車のマナーや交通ルールを守って、地域の方々や一般車両の迷惑にならないように、安全に登下校ができた。	97%	99%	99%
健康的な生活を送ること(生活のリズムの安定、十分な睡眠時間、病気の予防行動など)を意識できた。	90%	75%	88%
自分だけでなく仲間のことも大切に学校生活(発言や行動)を送ることができた。	96%	94%	99%
SNSの利用を含み、情報モラルを守った適切な使い方ができている。	96%	96%	98%
5つの力(気づく力、伝える力、考える力、つながる力、将来をえがく力)を意識して生活することは大切なことだと感じている。	94%	92%	98%
5つの力(気づく力、伝える力、考える力、つながる力、将来をえがく力)を意識して日々の学校生活を送ることができた。	84%	73%	94%
学級や生徒会、部活動等での役割に対し、集団のために役に立ちたいと思って取り組むことができた。	89%	85%	95%
学級や生徒会、部活動等での役割に対し、やって良かったと感じている。	91%	87%	96%

少数第一位を四捨五入しています。

○保護者の評価（できた、まあできた）

学校は、子どもにとって「わかる授業」を行っている。	79%
学校は、「あいさつが響く」「思いやりがあふれる」「全力を尽くす」など、一人一人の可能性を伸ばす学校づくりを推進している。	90%
学校は、いじめや差別がない、互いを認め合うことができる集団の育成を推進している。	86%
学校は、地域や家庭と連携し、地域とともにある学校づくり(社会に開かれた学校)を推進している。	92%
学校は、魅力ある学校行事を推進している。	92%
学校は、子どもの安全や健康のための取り組みを十分に行っている。(適切な学級閉鎖や防災訓練、薬学講座、交通安全教室など)	95%
学校は、便りやホームページ等で、学校の様子をよく知らせている。	95%
お子様は、基礎・基本的な学習内容が身に付いている。	63%

お子様は、家庭学習の習慣が身につけている。	55%
学校の様子を含め、親子の会話を欠かさないようにしている。	91%
将来の夢や身近な目標について、親子で話をしている。	72%
SNSを含む、インターネットの使い方や利用時間等に関して、お子様と話をしている。	71%
登下校時の交通ルールの順守等、安全(防犯)に関する話をお子様と話をしている。	84%
お子様は、朝晩のあいさつや登校・帰宅のあいさつなど、家の人や近所の人にあいさつをしている。	84%
お子様は、毎日朝食をきちんと摂っている。	92%
お子様は、生活のリズムを崩すことなく、毎日おおむね同じ時刻に起床・朝食・登校・帰宅・夕食・就寝ができています。	81%

少数第一位を四捨五入しています。

○学校運営協議会委員による評価（できた、まあできた）

学校は、子どもにとって「わかる授業」を行っている。	100%
学校は、「あいさつが響く」「思いやりがあふれる」「全力を尽くす」など、一人一人の可能性を伸ばす学校づくりを推進している。	100%
学校は、いじめや差別がない、互いを認め合うことができる集団の育成を推進している。	100%
学校は、地域や家庭と連携し、地域とともにある学校づくり(社会に開かれた学校)を推進している。	100%

学校は、魅力ある学校行事を推進している。	100%
学校は、夢や希望の実現に向けた「ふるさとキャリア教育」の充実を図っている。	100%
学校は、子どもの安全や健康のための取り組みを十分に行っている。(適切な学級閉鎖や防災訓練、薬学講座、交通安全教室など)	100%
学校は、便りやホームページ等で、学校の様子をよく知らせている。	100%

少数第一位を四捨五入しています。

○職員の評価（生徒たちの様子を含め）

学習面	・タブレットを活用し、必要な情報を引き出すことができる生徒が非常に多い。
	・ほとんどの生徒が落ち着いた態度で授業に臨んでおり、授業内での理解に努めている。
	・積極的に意見を述べたり、意欲的に話し合いに加わりようとする生徒が増えた。
	・授業内で与えられた課題について真剣に取り組む姿勢が身に付いているが、家庭学習など、日々自発的・積極的に学習に取り組めるとさらに良い。
キャリア教育	・身近な目標や将来の夢が具体的であればあるほど日々のすべきことが具体化する。できる限り明確な目標をもって、特に学習に取り組めることが望ましい。
	・ホソトレ、ホソフェスへの取り組みが年々向上しており、内容も充実してきた。
	・インターネットを活用するだけでなく、現場の生の声を聞いてくるグループが増えた。
	・自分たちで調べたことを、自分たちの言葉で相手に伝えられる生徒が増えた。
生活面	・発表用のスライドが大変見やすく、必要な情報を上手に伝えられる力が身に付いている。
	・互いの良さを生かして探究学習や発表時の役割分担をすることができている。
	・学校行事において、目標を掲げて取り組み、その振り返りをしっかりと行うことができた。
	・仲間の良さや頑張りを受け、自分に足りないと感じることを取り入れようとする事ができる。

健康面	・ほとんどの生徒が交通ルールを順守し、安全に努めている。ただ、それでも時折事故が起きる。些細なことが原因であることが多いが、さらに安全に努めていくことが求められる。
	・部活動や校外クラブに熱心に取り組む生徒が多く、成果を上げている。
	・SNS等、ネットトラブルは起きておらず、情報モラルに対する意識の高さが感じられる。
	・道徳や短学活等で学んだことを実生活に生かそうとする生徒が多く、困っている子にやさしく声をかけたり、親身になって考えたりする生徒が非常に多い。
生活面	・普段から生徒同士だけでなく、先生と生徒が会話を素直に楽しむ関係ができています。
	・積極的にあいさつができる生徒が多い。あいさつ運動への意欲的な参加も見られる。
	・委員会活動や部活動において、それぞれの役割を積極的に果たそうとする生徒が多い。
	・普段の授業から自分の意見を述べるだけでなく、仲間の意見も丁寧に聞こうとしており、その姿が、普段の生活においても仲間を大切にしようとする行動につながっている。
・職員は「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止を意識し、日々の短学活等を通して、時事の話題にも触れながら、倫理(道徳)意識の向上に努めており、生徒たちも真剣に話を聞いたり、話し合ったりすることで、互いに安心・安全な学校生活づくりに努めている。	

II(2) 自己評価からの考察と方策

・今年度は、各学年の総合的な学習の時間を系統的・体系的に結び付け、異学年交流によるホソフェス(探究活動発表会)を実施したことで、下級生にとっては、上級生の発表を見ることによって、①次年度の見通しを持つことができ、②発表の手本とすることができるため、さらなる発展が期待できる。今後は、資料提示の充実に加え、「話し方・伝え方」「聞き方・聞かせ方」「説得力」の向上を図る。
・ICT機器活用による資料や課題提示を簡潔化し、「考えること」「話し合うこと」「意見を交換すること」に十分な時間を割くことで、これまで以上に学習内容の定着を図るとともに、「自分の思いを自分の言葉で伝える力」や「相手の言葉からその意を汲みとる聞き方」の習得に注力し、生徒の自己表現力の向上を目指す。
・細江の子の良さが生かされ、いじめがなく安心して通える学校であるために、①二者面談等を活用して教員と生徒との関わりを密にし、心配事をすぐに相談できる関係性を築くことや、②短学活等を活用して、心の成長につながる説話や話し合いの充実を努める。

III 学校関係者評価

IIの(1)(2)の報告を受けて、委員からは以下のような意見があった。

・生徒の評価の中で、「授業の内容はわかりやすかった」の項目においてパーセンテージが高いが、本当に理解につながっているのかが気になる。
・学年だよりで伝えられる定期テストの結果を見ると、点数が低い生徒の割合が多いので、テスト自体が難しいのではないかと心配がある。
・家庭学習に関する項目のパーセンテージが低いので、家庭学習が充実しているかが心配である。
・全体的に2年生のパーセンテージが低いことが気になる。学習面だけでなく、生活面でも、他の学年と比べて低いので、気力的に大丈夫か不安になる。

(2024年2月22日 第3回学校運営協議会にて)

IV 今後の改善点

・タブレット等の活用により、カラー写真や動画を提示できるため、教科書の内容を視覚的にとらえることが容易になった。このことで、学習内容の理解度が上がったと考えられるが、同時に、生徒一人一人の「想像力」や「発想力」の欠如にもつながりかねないので、ICT機器をバランスよく使用して、5つの力の育成につながる授業改善を進めていきたい。
・定期テストにおいても、基本的な学習の定着を確認する問題を軸として作問しているため、当該学年の基礎基本の習得に迫る課題提示を目指す。また、学習内容の定着という点で、やはり「家庭学習」は重要な課題である。家庭と協力して、「生徒自身が自分の今(現状)と向き合う時間」の充実を図りたい。
・2年生にとって、学習内容が1年時と比べ難しくなり、習得すべき量も増え、また、生徒会活動や部活動における世代交代で、彼らが背負う責任が増したことから、様々なことに対する不安や自信のなさが結果に出てると推察できる。日々の指導を通じて、自信の獲得につながるよう、十分にフォローしていく。